

実践報告

札幌市立陵北中学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

- 自己肯定感、自尊感情の醸成を図り、「夢」をもてる生徒の育成

(2) 実践の内容

【実践①】松本哲也ライブ&トークについて

○ ねらい

- ・子どもに「夢」をもたせる。自己肯定感、自尊感情の醸成を行う。
- ・「生きる喜び」を真のメッセージとして、子どもたちの心へダイレクトに伝える。

○ 学習内容

- ・11月24日(金)5・6校時 全校道徳

反省と向上、個性の伸長、人間の強さと気高さ、生きる喜び、正義、公正・公平、差別・偏見の克服、郷土愛を盛り込んだ内容の講演、ライブを実施。

虐待やネグレクト、劣悪な家庭環境下での幼少期、児童養護施設での暮らし、児童自立支援施設での生活、様々な人との出会い、音楽との出会い、3.11の衝撃、東北、熊本復興支援などについて熱く、インパクトのあるパフォーマンスで、生徒の耳、目、心、全身にメッセージが伝わった。生徒がこれからどう生きていくかの示唆を受けた。その場の生徒の目の輝きや振り返り用紙から、生徒の感動が伝わり、大きな影響力があったことも確認できた。



【実践②】人権教育の推進 自己肯定感、自尊感情の醸成

○ ねらい

- ・一人一人が人権意識をもつ。自己肯定感、自尊感情=他者への思いやり、尊重
- ・道徳の時間を中心として「いじめへの理解、いじめの根絶」の取組

○ 取組

- ・いじめに関する道徳の授業 読み物教材 ディスカッション いじめ撲滅標語
- ・旅行的行事、各種行事、委員会、部活動等での成功体験、達成感

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 全ての活動(教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間、日常活動)で「人権教育」を扱える認識ができた。⇒カリキュラム・マネジメント
- 「松本哲也 ライブ&トーク」は高いクオリティーで行うことができ、より強く、深く生徒へ感動が刻み込まれた。
- 生徒の「夢」を育てるためには、教師が「夢」をもっていなければしっかりと伝えることはできないことを確認できた。
- 何かで「自信」をつけることは大切である。その後押しをチーム学校で進めていく方向性ができた。
- 旅行的行事や学年行事の取組および成果(もちろん、教師サイドの仕掛け)により、表情や言動に変化が表れるほど自信のついた生徒が増えた。
- 生徒理解の観点として、「人権」、「自尊感情」、「偏見」等の一人一人に配慮した視点や切り口での関わり方が定着してきている。

② 課題

- 校種間連携の観点から、人権教育についても小学校との連携が可能だった。
- 生徒だけでなく、本校教職員が使用する言葉にも配慮が必要であり、生徒間のSNS等でののからかいや中傷もゼロとはなっていない。
- 教師からの様々な働きかけや投げかけは増えたが、生徒自身の自主的な活動へ広げていきたい。
- 松本哲也ライブ&トークのようなインパクトがあり、生徒へも直接的に響く機会を道徳の時間で作っていきたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 人的配置が変わっても継続できるよう、教育課程内にしっかりと根付かせる。
- 「人権教育」を盛り上げるためには、生徒、教職員、保護者、地域も全て総動員で行うべきである。生徒会主催、PTA主催、健全育成主催、小中合同といった主体が多様なイベントや会合が有機的につながっていくのが理想である。
- 「自尊感情」や「自己肯定感」の伸長を計測することができる指標やアンケート、自己評価シート、ソーシャルスキル・トレーニング等を準備し、同じ生徒集団の経年変化を見取る。
- 生徒や学校から地域や社会(世の中)への発信により、内発的動機付けも責任をもって任せられる。
- あまり長期に渡らないうちの振り返りが必要である。